

初公開資料から不朽の名作まで、一挙公開！

企画展

高島屋創業 195 周年記念展

タカシマヤ クロニクル 百・華・繚・乱

第Ⅱ期：華の時代

- 会期 : 2026年 4月11日(土) → 6月 29日(月)
第Ⅰ部 4月 11日(土) → 5月 18日(月)
第Ⅱ部 5月 23日(土) → 6月 29日(月)
- 会場 : 高島屋史料館 企画展示室 (大阪市浪速区日本橋3-5-25 高島屋東別館3階)
- 開館時間 : 午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 : 火・水曜日
※展示替休館 : 5月19日(火)～5月22日(金)
- 入館料 : 無料

■ 開催趣旨

高島屋の歴史は、1831(天保2)年正月、初代飯田新七が京都・烏丸松原の地に古着木綿商「高島屋」を創業したことに始まります。本年は創業195周年にあたります。

高島屋史料館では、創業以来の史料や美術品、呉服、広告宣伝物など、高島屋の歴史とともに蓄積されてきた多種多彩な品々を収蔵しています。2026年は高島屋の195年を4期に分けてご紹介します。本年1月より3月まで開催した第Ⅰ期「百の時代」に続く第Ⅱ期は「華の時代」と題し、日本で百貨店文化が華ひらいた大正期から昭和戦前期までの時代を取りあげます。

大正の終わりに名実ともに近代的百貨店となった高島屋。昭和に入ると、ますます大型化し最新設備を整えた店舗に、文字通り「百貨」を揃えました。そして、バラエティーに富んだ催事を次々に開催し、人々へいち早く新しい話題を届けました。「百・華・繚・乱」—各時代の高島屋をお楽しみいただければ幸いです。

※本展は会期をⅠ・Ⅱ部に分け、展示作品を一部入れ替えて構成します。



百・華・繚・乱

TAKASHIMAYA CHRONICLE

第Ⅱ期 華の時代

百貨店文化、華ひらく。

2026年 4月11日[土]—6月29日[月]

第Ⅰ部: 4月11日[土]—5月18日[月] 第Ⅱ部: 5月23日[土]—6月29日[月]

【入館無料】休館日=火・水曜日 開館時間=10:00-17:00(入館は16:30まで)

※会期は変更となる場合がございます ※5月19日[火]～5月22日[金]は展示替のため休館

会場=高島屋史料館 企画展示室

高島屋史料館 Takashimaya Archives

Takashimaya

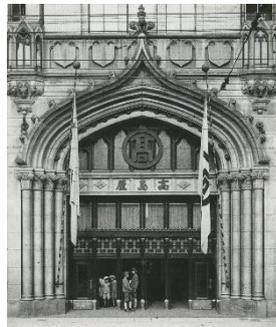
■ 展示内容

第1章 近代的百貨店

大正初期、日本の百貨店は次々に店舗の大型化を進めていました。1907（明治40）年の増改築により、大阪心齋橋店を「百貨店式」と称していた高島屋も、大規模店舗での本格的百貨店経営を開始することを決断。当時、大阪随一のメインストリートであった堺筋の長堀橋南詰に土地を取得し、新店舗を建築しました。1922（大正11）年10月、長堀店開店。高島屋は名実ともに近代的百貨店となりました。



1922年10月開店
大阪長堀店



大阪長堀店 正面入口



大阪長堀店開店ポスター
1922年【通期展示】



大阪南海店一部開店ポスター
1930年【通期展示】



1930年7月全館開店
大阪南海店



創業百年記念大売出しポスター 1931年
【通期展示】



東京日本橋店開店ポスター
1933年【通期展示】



1933年3月開店
東京日本橋店

第2章 美術の高島屋

1911（明治44）年、美術部（美術品の展示・販売部門）を創設した高島屋。美術部が直接依頼した作家の新作のみを取り扱うことを信条に、展覧会を開催して作品を販売しながら、人々と美をつなぐ橋渡し役を担いました。国内にまだ美術館が数少なかった時代、作家にとっては新作発表の場を、人々には最新の美術を無料で鑑賞できる場を提供し続けた美術部は、近代日本の美術と文化の発展に大きく寄与した存在でした。



岡田三郎助《支那絹の前》
1920年【I部展示】



ラグーザ・玉
《夏バラ》
1935年頃
【通期展示】



川端龍子《潮騒》1937年【II部展示】



初公開

河井寛次郎
《草絵壺》
1935年
【II部展示】

第3章 呉服の高島屋

高島屋の呉服のふたつの新作発表会―「百選会（ひやくせんかい）」と「上品會（じょうぼんかい）」―。百選会は、1913（大正2）年に創設。流行を自ら創り出すシステムを確立し、時代の最先端をいく、きものファッションをリードし続けた会でした。一方の上品會は、染織五芸（織・染・繡・絞・拵）の粋を競い、日本染織の最高峰を志す会として1936（昭和11）年に創設されました。

きもの美の創造と継承をめざした「百選会」と「上品會」は、呉服の高島屋の両輪となりました。

※百選会は1994（平成6）年を以て休会。上品會は本年、第74回開催。2027年に創会90周年を迎えます。



北野恒富《婦人図》
1929年
【1部展示】



与謝野晶子「詩と女」
1939年
【1部展示】



訪問着 近代詩韻
2014年復刻
【1部展示】

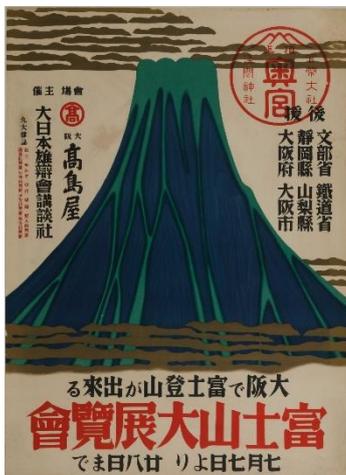


キモノの大阪春季大博覧会ポスター
1929年
【通期展示】

初公開

第4章 催物の高島屋

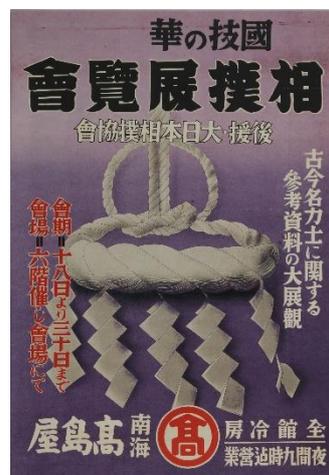
近代日本の百貨店は、多種多様な催事を盛んに開催しました。国内にまだ大型施設が数少なかった時代、大規模な会場を提供することができたのは百貨店であったからです。そして、話題性のある催事の開催は、百貨店にとっては集客を図る広告宣伝活動の一環でもありました。商品催、美術展、歴史展、観光展、物産展などいち早く最新的话题をお届けした高島屋のバラエティー豊かな催事は、大いに人気を集め毎回大盛況でした。



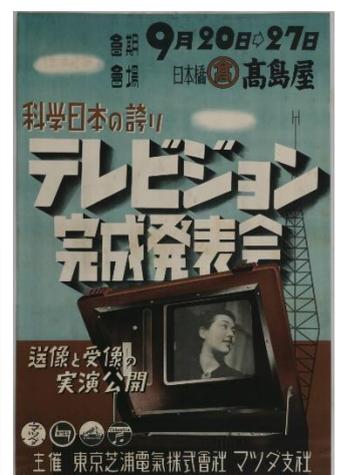
富士山大展覧会ポスター
1928年
【通期展示】



福の神大展覧会ポスター
1931年
【通期展示】



相撲展覧会ポスター
1936年
【通期展示】



テレビジョン完成発表会ポスター
1939年
【通期展示】

特別映像

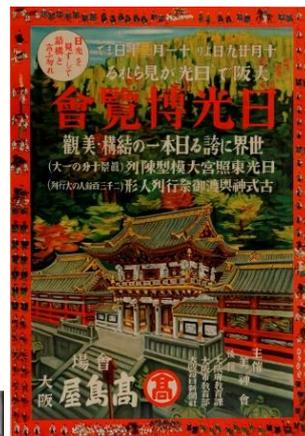
1927年大阪店で開催した「日光博覧会」を再現！

■会場=多目的ルーム（第Ⅱ期：華の時代 会期中は終日上映）

初公開

仏師・十代長谷川喜十郎が弟子32人とともに20年余りの歳月をかけて製作した精巧な日光東照宮全景1/10模型（櫻山八幡宮蔵）。

1927（昭和2）年、高島屋大阪店（長堀店）で開催した「日光博覧会」で展示された模型のすべてを映像でご紹介します。



日光博覧会ポスター
原画：高岡徳太郎
1927年【通期展示】

日光博覧会：「大阪で日光が見られる」「日光を見ずして結構といふなかれ」をコピーに1日20万人もの来場者を集めた空前の大ヒット催事。



■ イベントのご案内

※詳細は当館ホームページをご覧ください。状況により、イベントを中止する場合がございます。

① ②いずれも参加無料、**要申込み、抽選制**です。当館ホームページよりお申込みください。

① 講演会「百貨店ポスターにみる戦前期日本の催事事情」

要申込み・抽選制

■講師=田島奈都子氏（青梅市立美術館学芸員）

■4月26日〔日〕13：00～14：30

■会場=多目的ルーム ■定員=20名

② 講演会「祖父河井寛次郎と高島屋」

要申込み・抽選制

■講師=鷲 珠江氏（河井寛次郎記念館学芸員）

■6月14日〔日〕13：00～14：30

■会場=多目的ルーム ■定員=20名

■ 学芸員による企画展ギャラリートーク

会期中の第1・第3土曜日14：00～（約30分）※お申込み不要、開始時間までにロビーにお集まりください。

以上